

宮古諸島初となるカタグロトビの多良間島での記録と宮古島でのインドハッカ (カバイロハッカ) の繁殖記録

砂川 栄喜

〒906-0007, 宮古テレビ株式会社, 沖縄県宮古島市平良字東仲宗根 968-9

はじめに

カタグロトビ *Elanus caeruleus* は、アフリカやヨーロッパ南部、アラビア半島南部から南・東南アジア、ニューギニアに分布し、日本国内では 1995 年 1 月に石垣島で初めて記録された (真木・大西, 2000) . 石垣島では 2017 年から毎年繁殖し、周年繁殖行動を行っていると思われる (小林私信, 2021) .

インドハッカ (カバイロハッカ) *Acridotheres tristis* はアフガニスタンやミャンマー、インド、中国南西部に分布するほか、南アフリカや東南アジア、オーストラリア、ニュージーランド、ハワイなどに移入され定着している (真木・大西, 2000) . 日本国内ではかご抜けと見られる個体が各地で記録され、繁殖記録もある。沖縄県内では 2000 年 4 月に与那国島で初めて記録 (沖縄野鳥研究会, 2010) されて以降、石垣島や小浜島、久米島などで記録されている。宮古諸島では 2012 年 5 ~ 6 月に多良間島で記録されている (砂川, 2014) . 近年、石垣島では増加傾向にある (小林私信, 2025) .

今回、宮古諸島では未記録だったカタグロトビが多良間島で初めて記録された。また、インドハッカの繁殖が宮古諸島で初めて宮古島で記録されたので報告する。

方法

調査は 2024 年 6 月中旬から 2025 年 10 月上旬まで実施した。カタグロトビは 2024 年 6 月, 11 月 2025 年 2 月, 9 月, 10 月に 2 泊 3 日で

多良間島に滞在し、行動が活発になる夜明けから午前 8 時, 午後 5 時から日没まで個体確認、行動観察を行った。インドハッカは幼鳥と見られる 3 羽を含む 5 羽の群れを 2024 年 7 月に確認。確認場所の環境が繁殖に適していたことから繁殖の可能性があると判断し、翌 2025 年 4 ~ 6 月に巡回調査を不定期で実施した。

結果

カタグロトビ. 2024 年 6 月 18 日午後 7 時 10 分頃, 字仲筋の草地上空で 2 羽のカタグロトビを確認した (図 A-1) . 2 羽はおよそ 10 分間, 2 ~ 300m の距離を往復しながら戯れるように飛翔していた。

翌 6 月 19 日午前 6 時 20 分頃, 字仲筋の草地を低空で移動する 1 羽を見つけ追跡したところ, 前日確認した場所付近のトキワギョリュウ (トクサバモクマオウ) *Casuarin equisetifolia* の枝先に止まり (図 A-2) 、狩りをしていた。

2024 年 11 月 26 日午前 7 時 20 分頃, 字塩川の電線に止まっている幼鳥を確認した。確認場所は放牧地を備えた牛舎の近くだった。この個体は初列風切や次列風切, 三列風切, 初列雨覆, 大雨覆, 肩羽の先端部に白斑があった。また, 成鳥に比べ虹彩の赤味が弱く黄色味が強かった。

2025 年 2 月 2 日午後 5 時頃, 前年 11 月の確認場所とほぼ同じ地点で電線に止まり狩りをして いる 1 羽を確認した。この個体は 100m ほど離れたテリハボク *Calophyllum inophyllum* が優

占した疎林を拠点に周辺に点在する草地を移動、頻繁にホバリングしながら狩りをしていた。この個体が拠点にしていたテリハボク林には、もう1羽が姿を現し縄張り争いのような行動が観察された。これにより2羽いることが確認できた。

2025年9月17日午前6時25分頃、宇塩川の牧草地上空で頻繁にホバリングしながら狩りをする3羽を確認した。このうち1羽は前年11月に確認した個体と同様、風切や雨覆、肩羽などの先端に白斑があり、同年生まれの幼鳥であることが確認できた(図A-3)。残り2羽の白斑の有無は不明。

2025年10月11日午後5時40分頃、宇塩川の電線に止まっている3羽を確認した。3羽の距離は個体Aと個体Bが約10m、個体Bと個体Cが約20mだった。翌10月12日午後5時50分頃、前日とほぼ同じ場所でホバリングしながら狩りをしている1羽を確認。この個体は狩りに成功し捕えたのはネズミだった(図A-4)。また10月13日午前7時10分頃、宇塩川の刈り取り直後の牧草畑でホバリングしながら狩りをする1羽を確認した(図A-5)。多良間島在住の村山武範氏によると、2025年夏も1羽が電線に止まっている様子が数度目撃されている。

多良間島は、宮古島の南西約67km、石垣島の東約35kmにある面積19.8km²の楕円形をした平坦な島である。島の北側に集落があり、集落を基点にして馬蹄状にサトウキビ *Saccharum officinarum* を主体にした耕作地、その外側に畜舎や放牧地、牧草地が広がる。カタグロトビは

畜舎や放牧地、牧草地が広がる島の北東部から南西部を主な行動範囲としていた。多良間島と石垣島を往来している可能性は否定できないが、調査の状況から複数が多良間島に滞在していると思われる。今後繁殖する可能性もあると思われる。

インドハッカ(カバイロハッカ)。2024年7月27日、宮古島北部で幼鳥と見られる3羽を含む5羽を確認した(図B-1)。確認された場所は肉用牛の飼育施設と牧草地の間にある道路で、道路上を歩き回ったり電線で休んだりしていた。確認場所の環境から繁殖の可能性があると判断し、翌2025年の繁殖期に合わせて調査した。

2025年6月18日、前年7月の確認場所とほぼ同じ地点で囀りを確認。翌6月19日に同じ場所で1羽を確認し観察を続けた所、肉用牛飼育施設内を中心に活動していた。肉用牛施設内では2羽が確認され(図B-2)営巢中だった。1羽は右脚に銀色のリングをしていた。営巢していたのは鉄筋コンクリート造の牧草保管庫で、出入りに設置されたシャッターのモーターとコンクリート壁の間に巣があった。2羽は小さな昆虫をくわえ頻繁に巣に出入りしていた(図B-3)。

営巢が確認された肉用牛飼育施設は法定伝染病などの侵入防止のため外来者の立ち入りが禁止されているが、車外に出て歩き回らないことを条件に特別に立入許可をいただいた。このため営巢確認後の施設への立ち入りは控えた。

写真



図A-1 戯れるように舞う2羽のカタグロトビ



図A-2 トキワギョリュウの枝先に止まり
獲物を探す様子



図A-3 電線に止まり獲物を探す幼鳥



図A-4 ネズミを捕食するカタグロトビ



図A-5 ホバリングしながら獲物を探す様子



図B-1 電線で休むインドハッカ



図B-2 牛舎の軒下で休むインドハッカのつがい



図B-3 巣に餌を運び込むインドハッカ

謝辞

石垣島在住の小林雅裕氏にはカタグロトビとインドハッカの石垣島での状況や生態などについて貴重な情報をご教示いただいた。カタグロトビの調査に関し、多良間島在住の村山武範氏には貴重な目撃情報をいただいた。またインドハッカの調査に際し農業組合法人ピンフには立ち入り禁止区域への立ち入りを特別に許可していただいた。心より感謝申し上げます。

参考文献

- 日本鳥類目録編集委員会 2024. 日本鳥類目録 改訂第8版. 日本鳥学会.
- 仲地邦博・久貝勝盛 2020. 宮古諸島鳥類目録. 宮古島市史第三巻自然編 第I部みやこの自然別冊(編)宮古島市史編さん委員会. 宮古島市教育委員会.
- 澤田明・大林恭子・波照間良美・星日出子 2024. 波照間島におけるカタグロトビの記録. Bird Research20. NPO法人バードリサーチ.
- Mark Brazil 2008. Birds of East Asia. China, Taiwan, Korea, Japan, and Russia. PRINETON UNIVERSITY PRESS PRINETON AND OXFORD.
- 真木広造・大西敏一 2000. 日本の野鳥590. 平凡社.
- 沖縄野鳥研究会 2010. 改定版 沖縄の野鳥. 新星出版
- 砂川栄喜 2001. きらめく生命 宮古諸島の野鳥. ニライ社.
- 砂川栄喜 2011. 沖縄 宮古の野鳥 亜熱帯の水辺. 山野の鳥 ボーダーインク.
- 砂川栄喜 2014. 2000年1月から2014年4月までの宮古諸島鳥類の新記録種. 宮古野鳥の会 40周年記念誌. 宮古野鳥の会
- 石垣島バードウォッチングガイド SeaBeans.
- 国立環境研究所 生物多様性領域 生物リスク評価対策研究室. 侵入生物データベース. 国立環境研究所.

